

令和4年度
大津西小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「聞くこと」「話すこと」に重点を置き、他者と協働し学びを深める工夫
- 学校と家庭との連携による家庭学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長	仁木 博史	教頭	左海 久
播磨敬子	研修主任(1年)	阿望 粽子		高学年推進員	松浦 昌宏
	中学年推進員	武田 栄治		低学年推進員	播磨敬子

校長
仁木 博史 印

【各校の取組状況の把握について】

定期的に教員相互の参観授業を実施したり、校内研修等で現状を報告する機会や意見交換を行う機会を設け、改善に努める。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○指示された課題にまじめな態度で取り組むことができる。プリントなどで間違えても、素直に直すなど前向きに学びを進めようとする。 ●漢字や計算などの基礎的な学習の積み上げができていなかったり、文章を読むことや書くことにかかり時間がかかったりする。	・学びの基礎となる国語や算数の学年相応の知識・技能を習得し、活用していこうとするとともに、時間を意識して学習を進めることができる。	・朝の学習タイムなどに、ある程度の量を読んだり書いたりする経験を積み重ね、漢字・計算等の基礎の定着や「書く力」「読む力」を伸ばす。 ・読書活動を促進するとともに、新聞などを読むときには、文章の深い読み取りができるようにアンダーラインや囲みなどを活用できるようにする。 ・タブレットを活用して、習熟度合いに応じたドリル学習ができるようにする。 ・基礎学習が必要な児童に個別対応の時間を設定する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分のことを「話したい」「伝えたい」という意欲が高く、発言に積極的である。アイデアも、よく出てくる。 ●「この話題について」とか「相手の発言を聞いて」というような場面になると、なかなか考えを深められないことが多い。	・人の話を聞いて自分の考えと比較や同意することができ、その考えをまとめて、書いたり、発表したりすることができる。	・授業の中で、自分の考えと同じところ、違うところの線を引くなど、自分の考えと比べる場面をふやす。 ・学年に応じて、付箋やホワイトボードやICT機器を活用し、似た考えをまとめたり、仲間分けする経験をふやす。 ・自分の考えを伝える場面でも、ICTや付箋を効果的に活用する。 ・日記や作文指導を通し、体験と結び付けて文章表現の機会を設け、「はじめ・中・おわり」を意識させるようにする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○準備などの時間を意識して行動することができる。ヒントなどが提示されれば、どんどん進めることができる。 ●自分から積極的に意見を伝えたり、解決方法を考えたりすることが難しい。家庭学習や読書の時間が全体的に少ない。	・本校独自の学習と生活に関する「あたりまえ運動(生活・学習)」を継続して実践する。 ・学年に応じて、家庭学習や読書の時間を決めて実践する。	・あたりまえ運動の中でも、聞くこと・話すこと、返事を重点目標にして取り組み、定期的に振り返りを行う。 ・自主学習などについては、「家庭学習のてびき」を家庭に配付し啓発するとともに、連携を図る。 ・自主学習ノートの例やよいものを紹介する。 ・図書室や「こども新聞」等を積極的に活用し、読書の機会を増やす。ブックリストや読書カードも活用することにより、児童自身が読書量を振り返ることができるようにする。			

令和3年度 学力向上ロードマップ



